

平成30年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機関名	宇都宮共和大学
団体等名	西山ゼミ
学生代表者氏名 (所属・学年)	和田 瑛人 (宇都宮共和大学シティライフ学部 2年)
責任教職員氏名	西山 弘泰 (シティライフ学部専任講師)

1. 事業名	大谷の魅力アップと観光振興に関する調査
2. 実施時期	平成30年1月 ～ 平成30年3月
3. 実施場所	大谷を中心とした城山地区、国本地区
4. 事業の内容等	<p>本プロジェクトは、近年観光地として脚光を浴びている大谷の魅力アップと、それによる観光振興を図ることを目的とした。</p> <p>5月から7月の現地調査の結果、大谷地区の象徴ともいえる奇岩群が草木に覆われ、せっかくの景観が台無しになっていることがわかった。また、観光施設が集積する市営駐車場、大谷寺、大谷資料館周辺にも草が覆い茂った空き地が多く存在する。</p> <p>以上の問題意識から、報告者らは大谷地区の私有地における草刈り活動を8月13日に実施した。草刈りには本学の学生約40名と市役所職員、地元活性化団体10名の計50名が参加し行われた。</p> <p>次に今後草刈りを重点的に行っていく場所を選定するために、大谷地区の主要6地点にビデオカメラを設置し、通行量調査を実施した。その結果、徒歩での移動はほぼ市営駐車場から大谷寺までであり、その他は自家用車か観光バスの利用がほとんどであることが明らかとなった。このことから、市営駐車場から大谷寺間での景観維持が重要なことがわかった。</p>
5. 事業の成果と今後の課題	<p>上記の一連の事業・調査の結果は宇都宮市主催の「学生によるまちづくり提案発表会」で発表し、第1位を獲得する成果を出すことができた。その中の施策として提案したのが、大谷地区が市民や大学生の手によって持続的に維持管理されるシステムである（「石のまち大谷の景観を市民と行政が協働で推進する条例」を提案）。また、学生が草刈りなどのボランティア活動を行った際に、卒業単位となる「地域社会実習Ⅰ・Ⅱ」も2019年度から設置されることになり、今後より多くの学生が大谷を含めた宇都宮市の地域振興に関わることができるようになった。</p>

- (注) 1. 記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。
2. 事業内容がわかるような資料や写真などがあれば添付してください。
報告書(添付書類を含む)はA4判5枚以内にまとめてください。
3. この報告書は、各関係機関等に公表するとともに、大学コンソーシアムとちぎのホームページへの掲載を考えております。また、次年度以降の学生活動支援事業に役立てていきたいと思っております。